

中学校へ絵本寄贈

防災推進グループ 命の大切さ紹介

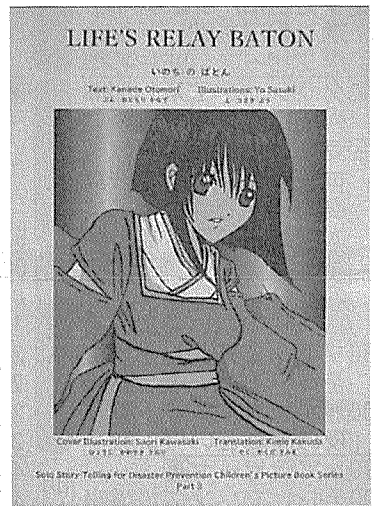
気仙沼

防災などをテーマに全国で朗読、落語などの無料公演を行っている東京都の『防災一人語り』推進グループ（加藤雅代表）がこのほど、気仙沼市内の中学校などに命や救命活動の大切さをつづったオリジナル絵本を寄贈した。

同グループは、脚本家や演技者、演奏者らが防火・防災意識の高揚などを目的に自主公演を実施。各地の災害や救命活動などの実話を作品にしており、2014年に気仙沼市でも公演している。

贈った絵本は、公演作品を基にした「LIFE'S RELAY BATON A TON いのちのばとん」（B5判カラー32ページ）。小学校高学年から高校生向けで英文も併記し、市内11中学校や市図書館などに郵送した。

内容は、高校の運動会のリレー競技中に倒れて亡くなった女子生徒の母親が、悲しみを乗り越えてAEDなどを使用した救命方法の普及活動に取り組み姿を描いた。表紙には、漫画家のアシスタントを目指していた女子生徒本人が生前に描いたイラストを使用した。元消防職員の加藤代表は「絵本を通じて自分はもちろん、家族や



寄贈された絵本

友人などの命の大切さを考え、救命活動に関心を持ってもらうきっかけになればうれしい」と話している。